

世界の全死亡のうち喫煙による死亡は11%

たばこ規制は「たばこの規制に関する枠組条約」の採択後に拡大した。これは公衆衛生上の主要な成功談である。しかしながら、喫煙は未だ世界的に早期死亡や機能障害の重大なリスクであり、継続的な政治的取り組みが必要である。今回、世界の疾病負担研究（GBD2015）の一つとして、世界および地域別・国別の評価をもとに喫煙率と喫煙関連疾患に関して系統的に解析した。

2,818件のデータソースを統合し、1990～2015年の25年間の195地域の性別および年齢別の毎日喫煙率を年ごとに推算し、寄与疾病負荷を評価した。結果、2015年の世界の年齢標準化毎日喫煙率は、男性が25%、女性は5.4%であり、1990年からそれぞれ28.4%、34.4%低下した。年間喫煙率が有意に低下した国や地域の割合は、2005～2015年よりも1990～2005年のほうが高かった。2005～2015年に年間喫煙率が有意に上昇したのは4つの国・地域のみであった（男性ではコンゴ共和国ブラザヴィル市、アゼルバイジャン；女性ではクウェート、東ティモール）。2015年の全死亡のうち、喫煙による死亡は11.5%であり、中国・インド・米国・ロシアの4か国でその52.2%を占めた。障害調整生存年齢（DALY）のリスク因子の上位5位までに喫煙が含まれる国・地域数は、1990年には88であったが2015年には109に増加した。出生年別コホート解析では、男性の喫煙率は国・地域の発展の程度に関係なく類似の年齢パターンを示していたが、女性の喫煙率の年齢パターンは発展の程度によってかなりの異質性が認められた。

したがって、世界の全死亡のうち、喫煙の寄与によるのは11%であることが示された。喫煙率低下の進展速度は、地域の発展の状況や性別によっても異なり、近年の傾向としては、とくに女性や低～中程度の発展状況にある地域では過去の低下率の維持は難しいと推測される。たばこ規制の取り組みが直面する大きな課題は、喫煙開始の防止と禁煙の促進が大幅に加速されない限り、人口動態の影響により喫煙の犠牲者が増加する可能性があることである。

出典：Lancet. Published online Apr 5, 2017; pii: S0140-6736(17)30819-X.